

	① 題(みかんの木の寺)	② みかんがあったところ	③ おしょうさんが、おこったところ	④ ばらばらにげたところ	⑤ みかんの木のあるところ	⑥ みかんがあるから	⑦ いちろうが手をのばしたところ	⑧ お寺に、いってばかりいること	⑨ 「ぬすんでたべたらすっばいすっばい」	⑩ においをかぐこと	⑪ お寺に、いってばかりいること	⑫ おしょうさんが、おこったところ	⑬ おしょうさんが、おこったところ	⑭ おしょうさんが、おこったところ	⑮ おしょうさんが、おこったところ	⑯ おしょうさんが、おこったところ	⑰ おしょうさんが、おこったところ	⑱ おしょうさんが、おこったところ
1	○																	
2	○	×																
3			○															
4			×															
5				○					×									
6				○						×								
7			×	×			×											
8			○	×														
9			○	×														
10			×				×				×							
11					○												×	
12					○												×	
13				×														
14	○									×								
15	○								×									
16		○	×										×					
17			×						×									
18			×															
19				×														
20							○							×				
21								○	×									
22					○						×							
23	×																	
24			○											×				
25									×									
26			○															×
27									×									
28									○						×			
29									×									
30														×				
31									×									
32			○								×							
33			×															
34				○							×							
35											×							
36				×														
37			○	×														
38					○												×	
39											×							
40			○	×														
41			○		○				×									
42			○						×									
43												×	×	○				
44													○					
45			○						×									
46			○															
47	×		×															
48									×									
49	×																	
50			×						×									

・ おしょうさんが、札を下げたことと、そのことば。
 ・ きょうは食べられると期待して、そろって門をくぐったのに、ひとつもみかんがなかったこと。しかし、かごにもいであつたところ。これらは、書いてほしかったが、結果は左の表のようにできた。

③④の、おしょうさんが、おこる場面をあげたものが24人と多い。(一読後)次に⑨が5人である。動きのある場面に興味を持つのであろうか。

学習後では、⑨の、みかんの花のにおいをかぐところがおもしろいとしたのが、11名いる。これは、読みの中で、この場面を動作化させたことが、影響しているのかも知れない。

⑩⑱、おしょうさんのことばに関心を示している。

①⑰⑱など、意外なところをあげている。⑰⑱については、〈テレビのドラマみたいだから〉という理由をあげている。

⑩と⑫は、この童話での、やま場をおもしろいと指摘している。一郎たちの心理の動きの大きいところである。

はじめ、一読したあとで、4名が、おもしろいところを、書かなかった。時間が足りなかったせいもある。はじめと、学習後と、変わらないものが、18名いる。最初にここがおもしろいと思うとほかのところに目が行かないのであろう。特にひとりで読み終えるような場合はそうなると言えよう。すじのはこびのおもしろさや、表現のおもしろさをとり出したものがなかったのは、「おもしろいところ」という質問のしかたにあつたのかと思われる。いろいろな側面のおもしろさを見つけ出させたいものである。

おもしろさは、子どもひとりひとりのものである。自由に受けとり、想像してよい。ただ、基礎となる、ことがら、場面、人物の読みとりは、共通にとらえさせたい。また、子どもが、どのような点をおもしろいとみるのかわかり、その角度からの教材調べも大切にしていくべきであろう。